



花の巨大迷路オープン

菊陽“まち”遊び

町の新たな魅力を発見し、歴史や産業を体験する菊陽“まち”遊びのオープニングセレモニーが10月5日、町総合交流ターミナルさんふれあの北側駐車場で行われました。

主催の菊陽町商工会は、昨年好評だったコスモスの巨大迷路をこしも開催。後藤町長やキャロッピーも参加してテープカットを行い、歌手のMICAさんのコンサートがありました。訪れた子どもたちは思い思いに迷路を楽しんでいました。



▲コスモスの巨大迷路で遊ぶ家族連れ

秋晴れの中ゴールを目指して

車いすふれあいジョギング大会

車いすふれあいジョギング大会が10月4日、菊陽杉並木公園さんさんとその周辺道路で開催されました。今年で30回目になるこの大会には63人が参加。参加した選手の皆さんは秋晴れの中、思い思いのペースでゴールを目指していました。

競技終了後の昼食交流会では、ボランティアグループ防災すぎなみがつたご汁がふるまわれました。参加者はだご汁を食べながら歌手のむたゆうじさんとくまモンによるアトラクションを楽しみました。



▲澄んだ青空の下スタートする選手の皆さん

交通事故防止のために

秋の交通安全運動(9月21日~30日)

秋の交通安全運動が9月21日~30日、「子どもと高齢者の交通事故防止」をテーマに行われました。これに合わせ、交通安全の意識を高め、交通事故防止を図ることを目的に「大津地区交通安全推進大会」が9月15日、西原村で開催され、交通安全講話や寸劇が行われました。また、交通安全母の会や町内事業所などが9月30日、菊陽久保田郵便局前を通行しているドライバーにシートベルトやチャイルドシートの着用呼び掛けを行いました。



▲交通安全を呼び掛ける交通安全母の会

熱い戦い

協会長旗争奪軟式野球ナイター大会

第51回協会長旗争奪軟式野球ナイター大会が8月18日~8月27日、町民総合運動場で開催されました。今年で51回目になるこの大会は、例年と異なり8月に開催され、11チームが夏の暑さにも負けない熱戦を繰り広げました。決勝戦では「ダンディーズ」が「星山商店」を破り、優勝しました。

大会の結果は次のとおりです。

【優勝】ダンディーズ

【準優勝】星山商店



▲優勝したダンディーズの皆さん

人生の可能性は無限大

第60回「知事出前ゼミ」開催

第60回「知事出前ゼミ」が10月14日、菊陽町図書館で開催されました。これは蒲島知事自らの体験談を通して、子どもたちに夢を持つことの大切さを伝えることを目的に平成20年度から行われています。

ゼミには菊陽西小6年児童や菊陽中2、3年生徒など計447人が参加。知事は幼少期の思い出や現在に至るまでの体験の中で夢を実現させるために努力を惜しまなかったことや困難が立ちはだかったときに夢という原点に立ち戻り努力してきたことなどを語りました。また、「人生の可能性は無限大」「逆境の中にこそ夢がある」「夢を持ち夢に向かって一歩踏み出す」「期待値を超える(120%の努力をする)」という4つのメッセージを贈り、子どもたちを激励しました。

講演後は虫歯予防に有効なフッ化物洗口の実演があり、虫歯の予防が呼び掛けられました。

菊陽中3年の富永祥平さんは「これから受験で逆境に直面するかもしれませんが、120%の努力をして頑張ります」とお礼の言葉を話すと知事からくまモンバッジが贈られ、会場から大きな拍手が沸き上がりました。



▲夢を持つことの大切さを伝える蒲島知事



▲お礼の言葉を述べる富永祥平さん(左)と浦上沙樹さん(中)

本格的な認知症カフェみちくさ 功労者受賞

認知症啓発キャンペーンinくまもと

認知症カフェみちくさが9月21日、熊本テルサで「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり功労者」を受賞しました。これは地域で認知症の人やその家族を支える活動に積極的に取り組む団体に対して贈られます。同カフェは認知症の人とその家族が気軽に訪れ、くつろげる場として昨年5月、三里木駅そばに県内初オープン。代表の矢野成美さんは「思いがけない表彰で光栄です。これからも認知症の人を支える活動に取り組んでいきたい」と話しました。



▲認知症カフェみちくさの矢野代表(右)と利用者、スタッフ

元気よくプレー

菊陽町子ども会ドッジビー大会

菊陽町子ども会ドッジビー大会が10月5日、菊陽町民体育館で開催されました。ドッジビーとは柔らかいフリスビーを使ったドッジボール形式のスポーツ。各子ども会から13チーム計128人が参加し、チーム一丸となって元気よくプレーしました。

Aパート【優勝】宮ノ上チームA【準優勝】火の鳥沖野A【第3位】上津久礼チームA

Bパート【優勝】Sunny's(緑陽台)【準優勝】上津久礼チームB【第3位】Green's(緑陽台)



▲選手宣誓する火の鳥沖野Aチーム



芸術の秋満喫

茄子の会作品展

茄子の会の作品が10月6日～10日、中央公民館1階ロビーで展示されました。同会の作品展はことし7月で1周年。水墨画や切り絵、写真、陶芸、押し花、創作人形、油絵などが展示され、会場には約50人が訪れ、芸術の秋を満喫しました。

同会代表の中村孝幸さんは「どの作品もプロ級。良い作品ばかりなので楽しんで見てほしい」と話していました。訪れた人は「どれもすごい。いろんな作品を見ることができていいですね」と話しました。



▲多くの作品が並び茄子の会作品展

自分の町について考えよう

若者の投票を呼び掛けるイベント開催

NPO法人ドットジェイピーが9月23日・27日、イオン菊陽店とゆめタウン光の森で若者の投票を呼び掛けるイベントを実施しました。ドットジェイピーは熊本大学、県立大学、学園大学の学生がメンバーで、若者の投票率向上を目的に活動。自分たちで作ったチラシ計1200枚を手渡して投票を呼び掛けました。NPO法人ドットジェイピーの久本郁奈さんは「次の時代を担う同年代の若者が自分の町や生活に関心を持ち、投票するきっかけになれば」と話していました。



▲浴衣姿でチラシを配り投票を呼び掛ける大学生(左)

伝えよう～話す勇氣・気づく力～

熊本県人権子ども集会

「部落差別をはじめあらゆる差別をなくす熊本県人権子ども集会」が10月11日、パークドーム熊本で開催されました。本町からも700人近くの小中学生が参加し、黒肥地小学校(多良木町)や熊本聾学校、高校生の意見発表を真剣な表情で聞いていました。熊本聾学校の生徒は手話は大事なコミュニケーションの手段だと発表。最後はみんなで『BELIEVE』の歌を手話を交えながら歌い、差別をなくしていく仲間として心を一つにしました。



▲中心になってつくりあげてきた中学生・高校生の実行委員

笑顔いっぱい!

町立・私立保育園運動会

町立・私立保育園の運動会が9月中旬～10月にかけて行われました。

三里木保育園の運動会は10月11日、菊陽南小の体育館で開催。子どもたちはこの日に向けてたくさん練習した成果を発揮し、一生懸命踊ったり走ったりしていました。保護者と子どもたちが一緒に体を動かす競技もあり、親子の絆がより深くなっているようでした。応援席には子どもたちの精いっぱい頑張る姿に笑顔で見守る保護者の姿がありました。



▲ゴール目指して一直線

▲親子で頑張りました

米がたわわに実りました

第12回田んぼの学校in白川中流域稲刈り体験

ことしの6月28日に「田んぼの学校in白川中流域」で水田に植えた稲を10月18日に収穫しました。

参加者は農家から指導を受けながら鎌を使って稲を丁寧に刈り取りました。その後、千歯こきや唐箕など昔の農機具を使った稲から米を取り出す脱穀やもみ殻の選別を体験。いった大豆を石臼でひき、きな粉作りにも挑戦しました。

菊陽西小4年の村松陸さんは「初めて稲刈りをした。たくさん稲を刈ったので疲れたけど楽しかった」と満足そうでした。菊陽西小4年の津田菜里さんは「稲刈りは初めてだったけど簡単でとても楽しかった。実ったお米をみんなで食べるのが楽しみ」と笑顔で話していました。

昼ご飯には、参加者が6月に植えた米で作られたおにぎりや柳水区婦人会手作りのカレー、サクサクのいも天を食べ、みんなで米の収穫を祝いました。

午後は米の貯蔵施設であるカントリーエレベーターを見学。脱穀した米が玄米を経て、食卓に届くまでの流れを勉強しました。



▲一生懸命鎌で稲を刈り取り、汗を流す参加者



▲昔の農機具「唐箕」を使って脱穀を体験する参加者

郷土の伝統を伝える

鼻ぐり井手子どもガイド

菊陽南小の5、6年生の児童15人が10月15日、菊陽北小の4年生の児童37人に鼻ぐり井手公園で鼻ぐり井手について説明しました。

この日、菊陽北小の4年生の児童は一日見学旅行で通潤橋を見学した後に鼻ぐり井手公園を訪れました。菊陽南小の子どもガイドは井手の仕組みやどうやって作られたかを菊陽北小の児童に説明。その後ボランティアガイドの矢野誠也さんが「鼻ぐり井手は田んぼが枯れないようにしているととても大切な水路です」などと話すと子どもたちは熱心にメモを取っていました。その後自作の模型で眼鏡橋について教えていました。

菊陽南小6年の荒川理央さんは「他の学校の児童に説明することは初めて。とても楽しかった。鼻ぐり井手の知名度がもっと上がってほしい」と笑顔で話していました。菊陽北小4年の濱崎颯詩さんは「鼻ぐり井手と眼鏡橋の造りがよく分かった。昔は今より技術が進んでいなかったのに、鼻ぐり井手の水は今も濁を巻いている。昔からずっとこの鼻ぐり井手が守られていてすごいと思う」と感心していました。



1 菊陽北小の児童(左)に鼻ぐり井手のガイドをする菊陽南小の児童(右) 2 矢野誠也さんから眼鏡橋の仕組みの説明を受ける菊陽北小の児童 3 鼻ぐり井手を通して交流した菊陽南小・北小の児童